

御殿場

十字の園

(題字 鈴木生二)

発行/総合福祉施設
御殿場十字の園
施設長 宮島克利
〒412-0023 御殿場市深沢1465の1
TEL 0550-83-1999
FAX 0550-82-5189
<http://www.jyuji.ne.jp>
e-mail:info@g.jyuji.or.jp
印刷/岳麓印刷株式会社

2016
No.211

[聖句] 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)

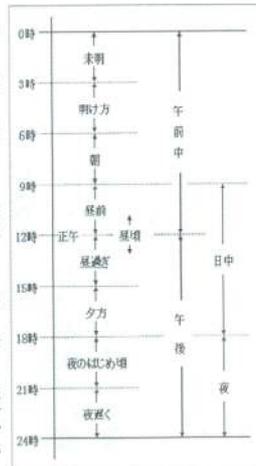


2016年09月10日 御殿場十字の園・園遊会 御長寿お祝い
我が君はちよにやちよに さぐれいしの巖となりて苔のおすまで
「私の敬愛する方は千代にも八千代にも長く小石が岩になって苔が生えるまで御長寿であっていただきたい」
(古今和歌集 詠み人知らず(紀貫之 撰))

イルド

理事長 平井 章

天気予報の中で「夕方から夜のはじめ頃に雨」と言っていました。「夜のはじめ頃」とは何時頃なのでしょう。参考に図を載せます。



「夕暮れ」とは、日の入り後で、別の表現では「黄昏(たそがれ)・日暮れ・薄暮(はくぼ)」があります。日の出前では「彼者誰(かたわれ)・明け・暁(あかつき)・東雲(しのめ)・曙(あけほの)」となります。黄昏(たそがれ)は「誰そ彼」、彼者誰(かたわれ)は「彼は誰」で、薄暗く人の見分けにくいことが語源です。日本の「言葉」は豊かですね。携帯電話は会話の道具でしたが、スマホはメールによる伝達の道具になりました。でも、相手を「慮(おもんばか)る」には対話が一番です。「目は口ほどに物」を言う時もあります。

受援力を高めよう

御殿場十字の園施設長 宮島 克利

二〇一六年度の十字の園大会が十月二十日と二十一日の二日間に渡り御殿場を会場にして開催されました。

テーマは「夢に向かって共に歩む」で、基調講演には、NPO法人の理事長奥田知志氏をお招きしました。奥田氏は、北九州市を中心にホームレス状態にある方に対し、伴走型で「共に歩む」支援を続けておられ、その実践はNHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」という番組に二度紹介されるほど心打つものがあります。

「助けて」と言える社会へ「人間とは何か？」を題に講演していただきました。その中で、多くの時間を割いて相模原市の障がい者施設で起きた殺傷事件について触れられました。目をそらし、なかったことにしたいような大変痛ましい事件で、今日の福祉の価値観を根底から覆された思いがしていただけないと思いませんか。大変感慨深いものがありました。

以下、その講演の概要をご紹介します。

『新聞やテレビなどの報道にあるような彼の精神疾患に対する対応については別にして、彼が障がい者の方たちを「生きていてもしょうがない」といった考えに至らせてしまった今の日本の価値観や文化の問題がある。有名な大学や大企業に入るといったことが高く評価され、人に頼らず、自己責任でなんでもするのが美德とされるような社会にあっては、逆に誰かの支援を多く必要とされる重度の障がい者は価値がないといった考えに至らせてしまふ。』

「いのちは大事」といった、そんなきれいなことではない。ホームレスの支援を通じ、人はいつか変わることを実感する。しかし、変わっていく人が大半であつても、数パーセント変わらない人もいる。変わらない人がダメというのでは、生きる意味のある人とならない人をつく

御殿場十字の園に

おけるBCPについて

防火管理者 芹澤 保憲

BCPとは、Business

Continuity Plan の頭文字を取ったもので、一般的に事業

継続計画と称されます。大規模災害（地震・大事故等）が起きた時に、被害を最小限に抑えて必要な業務を行うことが出来るよう計画をすることを言います。この計画は、最善・最短の期間で災害前の状態に復旧していく事が目標となるとともに、被災した私達自身の拠り所となる事項です。

ホテル、病院、そして私達のような社会福祉施設のBCPは一般企業の計画とは異なります。企業は『働く』を前提とした人のみが存在します。しかし私達の場所は、施設を利用する方々が『暮らす』『安らぐ』を提供する場であり、またこれらの施設は災害時に周囲の被災した人々を受け入れる立場にあります。そのため安全確保、

安否確認、サービスの継続、さらには受け入れを限られた人員で、震災直後から『事業を継続し続ける』という使命を持っています。

これらのことを鑑み、私達が計画の目標として掲げた三本の柱は次のとおりです。

- (1) 災害発生時における利用者の安全を守るとともに職員の安全も守る。
- (2) 災害発生後も途切れることなく、サービスを安定的に提供する。
- (3) 地域災害弱者の災害拠点になる。

これに基づき、災害発生時の事業の継続は、施設に住まう方（特養、ケアハウス、グループホームを利用する方々）ならびに職員の生命・生活を保護、維持するため

の業務を最優先とし、その他の業務は縮小・休止します。短期入所事業の災害後の受け入れ、通所系、訪問系、その他事業は原則休止します。周囲の復旧状況に応じて再開を目指すこととします。在宅サービスを休止した

場合は最優先業務を適切に実施した上で、被害状況・在宅サービスを利用される方の状況に応じて安否の確認・代替策を実施します。また同時に地域の災害時要支援者の受け入れを行います。これらの対応を取りつつ事業の復旧を図っていくこととなります。

災害時対応と同じく重要なのが平常時の準備対策です。災害を想定した平常時準備として最も重要な事は二つ。

- (1) 備蓄飲食料品は常に点検、整備を行うこと。
 - (2) それぞれがお互いに連携を取り情報の共有が出来るよう準備しておくこと。
- 災害は「来ないでほしい」と誰もが願います。しかし『忘れた頃にやってくる』のが災害の常です。来ないでくれるのを願いつつ、もしものときに安全・安心、そして事業継続＝生命維持が出来るよう心がけてまいります。

つてしまふ。変わらなくて
も人は生きていける。

今の日本の特徴として「助けて」と言えない子どもが増えている。そして、いつのまにか自ら命を絶つてしまうことがある。特に新学期に多い。「助けて」と言えない社会は大問題である。そもそも大人が「助けて」と言わない、言えないからである。助けを求めることに對してマイナスの価値観があり、助けを求めていることは、負け組、甘えている、頑張らなかつたという結果と思つてしまふ。また、特に牧師もそうであるが、福祉に携わる人たちは、人を愛する技術はあつても、人から愛される技術は苦手、受援力が低いと言へる。

は、社会的孤立の人の比率がOECD諸国の中で最も高い。伴走型支援とは、単に物（食べ物・お金・住居等）を与えるだけでなく、物に人が関わることで物語化していく支援である。」講演を聴きながら実際私たちは助けを求めることを苦手としていることを思います。最近起きてしまった転倒事故。その事故は二人の利用者さんを同時に対応しなければならぬ状況になつて、他の職員の応援を呼べば防げたかもしれない事故でした。しかし、助けを求めるのは気が引け、自分一人でやろうとしてしまつたこのことです。

私たちは、「人に迷惑をかけたくない」とか「すべて自己責任だ」と無意識の内にも思つてしまひ、また、見栄やプライドといったことが邪魔をして、なかなか「助けて」とは言いにくく、言えないところがあります。でも、そうした価値観が優劣思想になり、相模原のような事件を生じさせてしまつたのかもしれない。私たち職員一人一人が受援力を高めていくことが大切であり、「助けて」と言い合える職場環境を築いていけたらと思ひます。

夕涼み会について

シヨート 依田 未帆

七月二十八日に行われた夕涼み会は、準備段階から過ごしやすい気候に恵まれ開催することが出来ました。年に一回の夏の一大イベントを盛り上げる為に踊りや付き添いのボランティアの皆様、青年団の皆様の力をとお借りすることができ、利用者の皆様、御家族の皆様笑顔になつて頂くことが出来たと思ひます。夜空に輝く花火に歓声が沸き、夏をより一層感じて頂けた



のではないでしようか。「花火がきれいだったよ」と嬉しい言葉を聞き、職員一同ここまで準備をしてきて良かったと思うのと同時にこれからも利用者の皆様の為に力を尽くしていきたいと思ひます。来年の夕涼み会も皆様の素敵な笑顔が溢れますように・・・ありがとうございました。

園遊会

実行委員長 鈴木 卓

今年度の園遊会では、市内の高校生の美術部生徒さんに依頼して、お祝いされる方々（百歳以上・白寿・米寿）の似顔絵を書いていただいて記念品としました。贈呈時には涙を流し喜んでくれる方もいらつしやり温かい気持ちになりました。式の最後のアトラクションでは、今回初めての試みでもある職員の寸劇の中にボランティアの皆さんによるスコップ三味線と瀧西太鼓の演奏を組み込み込みコラボ

ーシヨンが実現しました。初めての事ゆえ不安もありましたが、ボランティアさんと職員の気持ちが一つになり見事に成功しました。特に瀧西太鼓を演奏しているお子さんたちがお年寄りにお子さんたちがお年寄りに寄り添つて太鼓を叩いている姿が、孫とおじいちゃんと一緒に楽しんでる姿に映り感激しました。準備の段階で不十分な点がいくつかありましたが、素敵な笑顔がたくさんあり心温まる園遊会になりました。



新職員紹介

森田 美生



みなさんに支えられて、一年が過ぎました。本当にありがとうございました。感謝です。自分の弱い部分、足りない部分を改めて気づかせる機会を与えて下さった主とこの現場に感謝いたします。
キリスト教の精神を基に、毎日が学びでありたいと思います。これからもご指導よろしく願っています。

土屋 俊樹



今年の四月より三階寮棟ひばりユニットに配属になりました。土屋俊樹です。約二年前にこの御殿場十字の園で介護実習をさせていただきました。その時の印象がとても強く、就職することを決めました。日々多くのことを学び吸収していきたい、自身成長していきたいと思っています。

北田 有希



今まで契約社員でしたが、今年の四月から正式に職員となった北田です。職員になって覚える事が多く大変ですが、両親からは「真似できない尊敬する仕事」と言われた為、その言葉を励みに頑張ります。

大胡田 ゆう子



四月からかなり急に配属になりました。大胡田ゆう子です。以前はパートとしてお世話になっていました。が、これからは早番・夜勤・遅番などが増え皆様とより深く関わっていくことが出来ると思います。微力ながらがんばりますのでよろしくお願い致します。

富樫 優里花



十字の園に入る前は、病院で一年半働いており、介護のことはまったくわからず、今はたくさんのことを勉強させて頂いています。今後の目標は、利用者さんと一緒に笑顔で過ごしていけるよう、頑張っていきます。

長島 幸子



二年前に掛川から転居し、御殿場十字の園に入職して一年半が経ちました。まだまだ慣れない道を必死にご利用者様のお宅へと車を走らせています。職場や地域の皆さんに温かく支えて頂きながら、これからもご利用者様・ご家族様に寄り添っていきたくと思っています。

林 真樹



去年の四月から「くろっちょ」に配属されました。素晴らしい先輩たちと一緒に働いて、とてもやりがいを感じながら働いています。これからも謙虚に学びながら、頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します！

ケアハウス

とらや御殿場工場の

見学に行ってきました

ケアハウス・アドナイ館 宇佐美 昌彦

九月十五日午前の社会見学はなんと二ヶ月待ち。老舗の羊羹のとらやさんです。職員二名を加えた総勢十四名が到着した見学先は、外観の清潔感に溢れた美しさに圧倒されます。まず会議室にて工場長の挨拶、「虎屋」の説明、見学時の注意事項を受け工場へ。ガラス越しに実際の製造過程と傍らのビデオ映像、引率の部長さんの補足説明を見て聞いて見学路を行います。資料室では創業からの歴史と社会貢献について、さらには厳選された小豆・砂糖・寒天や道具等を実際に見て触れて知識と見聞を深めました。見学の最後に三種類の羊羹と上質のお茶を頂戴して、おみやげは紅白最中と、至れり尽くせりの社会見学に大満足であったことは言うまでもありません。



〈ボランティア紹介〉
御殿場市立東小学校
「福祉交流体験」



私たちはおおきな社会の営みの中にいます。その中で生活していくためには、多くの人々が守るべき事を知ること。そしてまた日々の暮らしの中の経験や教えから学んでいくことが必要となります。前者は社会や組織の中で育まれ、後者は多世代が同居する大家族制が普遍であった頃に家庭の中で積まれて行きました。その二つが相まって人を形成していったと言えます。

今、家族単位が小さくなって学校が担うべき役割が以前にも増して大きくなっていくと思います。人を慮る「福祉」という存在は生活の中で成り立っているからです。だからこそ学校における「福祉教育」が重要になっていくのです。御殿場市立東小学校では、その必要性に早くから着目し、何年も前から「福祉交流体験」を私共の施設で行ってくださっています。今年も七十名の児童のみなさんが来てくださいました。



今回の私たちはボランティアを受けるだけの立場だけではなく、感謝と慈愛の心を持つ重要性が増していく。これからの社会に巣立っていく皆さんに、人生の先駆者・経験者が何時でも此処に居る安心感を知っていただく事を担っておりました。先日体験を終えた皆さんからの御礼の言葉を網羅した冊子を頂戴いたしました。この体験が皆様の『やさしさ』と『よろこび』の経験の一つとして心に永く残して頂ければありがたいと思います。

地域活動支援センター
くろつちよ



二〇〇〇年に身体障害者デイサービスセンター「くろつちよ」として事業を開始しました。身体に障がいをお持ちの方の日常的な介護はもとより、創作活動や機能訓練などの様々な活動援助をさせていただく通所施設です。ご利用者様、職員が一緒になって楽しく過ごすことのできる、笑顔と笑いあふれる事業所を目指しています。日本全国の食べ歩き企画(郷土料理作り)、バーベキュー、

障害者相談支援センター
御殿場十字の園

事業所名の通り障がい(身体)をお持ちの方への相談援助を行う機関です。県内外の病院・施設・支援学校等の多機関との連携で成り立っています。障害者相談支援従事者という資格を持つ相談員二名で御殿場・小山の方の支援にあたっています。業務内容はケアプランの作成を行う特定相談支

春と秋の小旅行、スーパーへ買い物、本気ウノ大会(景品ゲットのために皆さん目が血走っています)、野菜作り、陶芸、習字、カラオケ、ポッチャ、また四季折々の花見や食事など。様々な活動や自然鑑賞、食事や人との関わりを通して利用者様が楽しみを見出し、生きる希望を持っていただきたいと思います。

援事業と、病院や施設からの退所支援を行う一般相談支援事業、そして相談業務の中核にあるのが平成十八年に指定を受け、ずっと大切に守ってきた御殿場・小山で生活する方の相談援助を行う地域相談支援事業です。(住宅改修・福祉用具の購入・生活の悩み・就労支援等)これからも地域の皆様に貢献できるように寄り添いの支援をしていきたいと思っています。



献金下さった方々

敬称は略させていただきます

4月分

鈴木艶子、千田恵子、上田保、日本基督教団岩本教会、浜田伸彦

5月分

丸木進、鈴木きよ子、匿名

6月分

目黒区中央第二地区民生児童委員協議会、小野明、小野郁夫

7月分

東洋英和女学院、西村正子、大野原建設工業、深沢青年団、東山青年団、鮎沢青年団、福島正昭、小宮山年男、小見山宗明、山崎嘉光、岩田富雄、小野麻利子、須崎トシコ、小宮山次由、山口宗吾、井上あい子

8月分

富士社会教育センター、小松保、鈴木艶子、小野桂子、ロッキーフタ、土屋美佐子、匿名

協力ボランティア

敬称は略させていただきます

4月

厚生年金婦人部、アドナイ館、藤原節乃、神保久美子、秋葉絹子、加藤正代、中曽根靖枝、中里京子、鈴木征子、AKI美容室、ポーラ化粧品、藤川けんグループ、伊藤洋子、堀尾道子、印野はさまの会、ビューティーサロンヤマダ、ナカノ美容室、若葉会、日置富貴子、レクダンスエンジェル、隆生会、鈴の会、岩崎折子、砂山春江、御殿場教会、赤十字奉仕団、市婦連福祉グループ、勝又美和子、勝又えつ、春風一路

5月

藤原節乃、神保久美子、勝又ツヤ子、秋葉絹子、藤江静子、鈴木征子、日置富貴子、岩崎欣子、アドナイ館、中里京子、厚生年金婦人部、AKI美容室、ビューティー

御殿場十字の園へのご寄付

4月分	5件	27,000円
5月分	3件	1,013,000円
6月分	3件	30,000円
7月分	16件	96,000円
8月分	8件	60,000円

4月～8月累計
35件 1,226,000円

ご献金、ご献品心より感謝申し上げます。

郵便振替口座
口座番号 00870-9-190162
口座名称 社会福祉法人十字の園 御殿場十字の園

ご連絡下されば振替用紙をお送りいたします。

サロンヤマダ、大西孝明、ふれあい動物(富士保健所)、不二聖心中学、御殿場教会、金子克己、ゆうゆうクラブ、隆生会、赤十字奉仕団、伊藤洋子、堀尾道子、鈴の会、芹澤菊枝、勝又美和子、勝又えつ、市婦連福祉グループ、春風路、なでしこ会、東山婦人会

6月

しょうえい幼稚園、厚生年金婦人部、アドナイ館、藤江静子、金子克己、藤原節乃、神保久美子、秋葉きぬ子、勝又ツヤ子、野木栄子、日置富貴子、杉山英子、中里京子、印野はさまの会、ビューティーサロンヤマダ、川波俊昭、杉の子大正琴、不二聖心中学、なでしこ会、御殿場教会、赤十字奉仕団、図書館お話し会、みくりやそばスタップ、関根保子、高橋弘子、深沢女性の会、エンジェル(レクダンス)、鈴の会、市婦連福祉グループ、不二聖心高校生、若葉会、春風一路、隆生会、勝又美和子、AKI美容室、芹澤菊枝、たかね婦人会

7月

厚生年金婦人部、アドナイ館、勝又ツヤ子、秋葉絹子、藤江静子、藤原節乃、杉山英子、岩崎欣子、神保久美子、東山婦人会、中里京子、芹澤菊枝、暮らしの安全課(交通安全教室)、東小学校、野木和子、モラロジー女性部、加藤正代、中曽根靖枝、中垣内紀子、

赤十字奉仕団、琴音会、図書館お話し会、隆生会、御殿場教会、春風路、和田律子、栢の木婦人会、鈴の会、なでしこ会、藤原グループ、市婦連福祉グループ、東山青年団、鮎沢青年団、深沢青年団、かしわ会、深沢民踊会、勝又美和子、御殿場民踊グループ

8月

藤原節乃、日置富貴子、勝又ツヤ子、藤江静子、中里京子、菅原幸和、アドナイ館、厚生年金婦人部、神保久美子、AKI美容室、印野はさまの会、藤川けんグループ、杉山英子、エンジェル(レクダンス)、芹澤菊枝、勝又美和子、赤十字奉仕団、図書館お話し会、野木和子、隆生会、若葉会、富士社会教育センター(IHI株)、加藤正代、中曽根靖枝、御殿場民謡グループ、杉の子大正琴、御殿場教会、市婦連福祉グループ、春風一路

あとがき

「寒くなると肩が凝る。」と言います。「肩凝り」は、出世魚の名前と同じ日本独自の言い回しで諸外国にありません。小説「門」の中で文豪夏目漱石が用いた表現が発端と言います。逆に「沈着冷静」の英語表現は「as cool as a cucumber」ですが、直訳は「胡瓜のように冷静」。またこれからの季節に相応しい「Be lit up like a Christmas tree」の意味は「ひどい酔っぱらい」となります。所変わればですが、外国人が首を傾げる慣用句第一位は「猫の手も借りたい」だそうです。傍らで寝ている猫が手を貸してくれても何の役にも立たんなあと想いつつ、この機関誌をお手元にお届けします。(やまもと)

省電力化工事を行っています

現在、御殿場十字の園全館(本館・アドナイ館)の空調機器交換と一部の非常灯・特殊照明を除いた照明器具のLED化を行っています。正面玄関もひととき明るくなりました。一九九九年に全面改築を行ったときも当時考えられる省電力

化が図られていたことは確かですが、省電力・高照度のLED照明に替わっていくと、その明るさに戸惑いと感動を覚えるとともに、十七年という時間の経過と技術の進歩を感じます。

